

愛媛大学社会共創学部
地域資源マネジメント学科

文化資源 マネジメント コース



Department of Regional Resource Management
Faculty of collaborative Regional Innovation
Ehime University

文化資源マネジメントコースの特徴

都市や農村で生じる過疎化や人口減少、コミュニティ活動の担い手不足等の課題に対して、地域のさまざまな文化資源を掘り起こし、文化を活かした地域づくりに注目が集まっています。これからの地域社会では、地域文化の保存・継承・活用と連動した地域振興や観光振興の取り組みが求められています。

本コースでは、歴史的な文化遺産の発掘や古建築などの保存に関わる「文化遺産領域」、都市や農村の文化を観光に活かす「観光文化領域」、地域文化をまちづくりに活用する「まちづくり領域」の3領域から学ぶことができます。それぞれの領域では、大学外でのフィールドワークやワークショップなどの演習・実習に参加することにより、実践的な技術を身に付けます。

文化資源マネジメントを学ぶためのカリキュラム

キャンパスで学んだ専門知識や理論を地域を舞台にしたフィールドワークで実践します。

4 回 生	卒業研究の作成	フィールドワークの実践的な経験・知識・技能
3 回 生	3つの領域のいずれかに重点を置き専門性を高めます。 「文化遺産論演習」「観光文化論演習」「都市景観論演習」 「地域構想論演習」「文化資源活用論演習」など	
2 回 生	文化資源に関する知識を3つの領域から習得します。 「環境文化論」「文化遺産論」「観光地形成論」「観光文化論」「文化資源活用論」 「環境文化論」「歴史文化論」「地域構想論」「都市景観論」など	
1 回 生	共通教育・社会共創学部共通の科目 (課題解決思考力科目・基礎力育成科目など)	

文化資源マネジメントコースが目指す人材

地域文化の継承や活用に携わる人材、地域の課題解決のために貢献できる人材、文化を活かしたまちづくりや観光振興・地域振興でリーダーシップを発揮できる人材を目指しています。

- 教育委員会、観光振興やまちづくりに携わる公務員
- 観光や地域振興、地域活性化に関わる民間企業
- 文化振興やまちづくりに関わる NPO・NGO などの職員
- 地域情報、旅行・観光情報などを制作・発信するマスコミ関連



カリキュラムの詳細な情報はコチラから→

コースの専門科目

文化遺産論Ⅰ 担当教員 / 横林 啓介

文化遺産は現代的な概念です。過去の歴史の営みとその遺産を後世に伝えるために、行政、地域社会、そして我々自身はいかにしたらよいのだろうか。そのために、文化遺産そのものとは何か、文化遺産や文化財を取り巻く我が国そして世界の制度や行政のしくみ、および歴史的背景、さらには文化遺産の見方・捉え方を学びます。そのうえで、地域と文化遺産・文化財を取り巻く諸問題を解題していきます。



文化資源活用論 担当教員 / 佐藤 大規

文化資源とはどのようなものを指すのでしょうか。文化財として指定されたもの（例えば国宝）だけを指すのではなく、もっと身近な神社や寺院、さらに石碑や絵馬、生き物など多種多様なもの、そのどれもが文化資源となりえます。そして、その活用方法や見方はその資源によって異なります。この授業では文化資源の具体例やマネジメントの手法を通じて、それぞれが持つ見方、活用方法、活用時の問題点など文化資源活用の意義について学びます。



観光文化論 担当教員 / 井口 梓

地域の文化は、観光客や観光事業者・行政、地域住民など、様々な人々が関わって「観光資源」と呼ばれる対象になり、新しい価値や意味が生まれます。この授業では、観光ガイドブックや若者の海外旅行、フィルム・ツーリズム等の観光動向、伝統的な町並みや瀬戸内海国立公園など多様な事例を通して、「観光文化」について学びます。



地域構想論 担当教員 / 淡野 寧彦

各地域に存在する、伝統的あるいは地域独自の文化・産業の特徴について学ぶことにより、そこから見出される地域性や地域資源の将来性と課題などについて理解します。具体的には、地域の伝統的産業ないし行事の成立と現在に至る継承および変容の特色、地域の第一次産業の発展と現代的課題への対応策などについて考えます。



文化遺産論Ⅱ 担当教員 / 村上 恭通

私たちの身の回りにはたくさんの文化財があります。その文化財の保護や活用をめぐる法令や制度を学んだうえで、日本各地の実例に触れながら、それらの成功点や問題点を明らかにします。また各地で行われている文化財を核とした地域づくり活動をとりあげ、受講生のみならずにはステークホルダーになったつもりでその活動を評価していただき、文化財と地域社会のよりよい関係構築について学んでもらいます。



都市景観論 担当教員 / 寺谷 亮司

都市を分析するための基本的視点や各種モデルを学んだ上で、スラムの立地場所が都市周縁（アフリカ都市）と都心周辺（米国都市）、中層建物が都心に卓越する美しいヨーロッパ都市など、日本および世界の都市の景観や住民特性、都市問題とその背景を理解し、都市の魅力や将来性など、今後の都市ビジョンについて考えます。



在学生からのメッセージ 乾 乃梨

文化資源マネジメントコースとして一番初めに受講する専門的な科目で、それぞれ異なった視点から地域の文化資源について追求する事に面白さを感じると同時に、私の場合自分が専門的に学んでいきたい分野がはっきりしていなかったため、授業を受ける中で今までなかった新たな興味をたくさん持つことが出来ました。また既に学びたいことが決まっている人にとっても、全く目を向けていなかった分野の魅力に気が付ききっかけにもなる授業であり、大学生活での学びの幅を大きく広げることが出来ると思います。



フィールドワークプロジェクト演習

砥部焼歴史遺産の可能性を探る - 保存・活用と地域づくり

愛媛県砥部町は砥部焼の産地です。砥部焼は江戸時代 18 世紀後半から磁器生産を始め、その後も様々な技術革新等の試みを繰り返しながら現在も営み続けています。プロジェクトでは過去の窯跡等の遺跡を地域の方々といっしょに調べ記録しつつけています。少なくとも過去に生きた人々とその社会の記憶と遺産（遺跡）を、文字通り掘り起こし、地域社会とともに受け継いでいくことが、将来の地域づくりにとって求められているのだと思います。



文化の継承につながる観光まちづくり実践

重要伝統的建造物群保存地区のある内子町は、銘木の産地でもあります。私たちは内子町の林業にまつわる歴史文化を現在に伝える民具（古い道具）、古民家、廃線となった森林鉄道、山々の景観、木にまつわる信仰・祭事を対象に、調査を通して記録収集し、観光まちづくりの資源として活用するために、観光マップや観光ガイド動画の制作、ポスターやガイドブック、カルタの制作、古民家での展示会、学校と連携した体験学習の実施など、様々な実践に取り組みました。



大洲市新谷地区でのフィールドワーク

寺谷ゼミでは、原則として8月下旬に、大洲市新谷地区を拠点として、2～3泊の調査実習を実施しています。調査活動は、関心のあるテーマを基に2・3回生2～3名の調査班を結成し、調査計画の立案、当日のアゴ取り、現地調査の実施、調査後は調査成果をまとめ、口答発表や報告書を作成します。実習最終日には、関係者を招いての現地報告会も実施します。調査の準備、実施、報告の一連の活動は、卒論作成のための準備・練習として貴重な経験です。



地域の暮らし・文化・産業を生かした活性化

愛媛県上島町に存在した製塩業に関する史料や実際に従事した地域住民へのインタビューから、当時の製塩業の存在が、地域の経済的・社会的基盤形成に大きく寄与していたことを明らかにしました。愛媛県伊方町に関する投稿動画の分析や現地調査から、同町に対するイメージや見過ごされている点を明らかにし、今後の地域振興策を検討しました。



地域における文化資源の発見・保存・活用

西条市にはかつて西条陣屋と小松陣屋という二つの陣屋（小大名の政庁）がありました。本研究では西条と小松陣屋の現存する建物に注目して、その構造や細部意匠などを比較検討することで、それぞれの特徴や石高による違いなどを調べました。その上で、城郭建築の一部である陣屋建築の文化遺産としてのあり方や今後の課題について検討しました。



在学生からのメッセージ 古屋 祐香利

文化資源マネジメントコースでは、実際にフィールドに出て調査を行い、歴史遺産・観光・飲食文化など、様々な分野から地域の課題解決に取り組むことができます。私が所属するゼミでは、文化遺産の保存と活用について研究を行っています。現地調査を重ねる中で、どんな条件が揃う場所に遺跡があるのか、地域の方は遺跡とどう関わってきたのか、といった自分なりの目線で文化遺産を見ることができるようになり、地域に深く入り込むからこそ得られる気づきや楽しさも沢山ありました。皆さんも、地域に残る文化資源と一緒に探してみませんか。



フィールドワーク 課外

寺谷 亮司 研究室

寺谷の特徴的な活動に、アフリカと酒に関わる活動があります。前者はモザンビークとの10年以上続いている愛媛大学の交流活動、後者は愛媛大学酒「愛され媛」プロジェクトや愛媛県産酒の販促振興活動などです。愛媛大学・地域共創研究センター長として、様々な地域貢献活動・イベントも主催しています。



村上 恭通 研究室

歴史遺産は多くの場合、国民の共有財産であることから、歴史遺産をめぐる活動は必然的に自治体や地域社会との連携が必要です。愛媛県内では松野町、愛南町、宇和島市、西予市、大洲市、松山市、今治市、上島町、西条市や各地域の方々と連携して、遺跡の発掘、保存、整備そして活用事業に参画しており、その実践に触れることができます。また兵庫、岡山、鹿児島など県外でも同様の活動を実施しています。



榎林 啓介 研究室

歴史遺産に関わる方々や研究者を招聘して、多彩な特別講義を行っています。これまでに、中国における文化遺産の保護と活用（秦小麗氏・復旦大学）、文化資源はなぜ大事なのかーバリ島民族考古学事例からー（細谷葵氏・お茶の水大学）、文化遺産の保存と継承の諸問題ー松山市の取組事例からー（楠寛輝氏・松山市教育委員会）などがありました。また、関係の方々に直接お話を聞くために県内外の遺跡や活動の現場などの実地を訪問したり、社会と学問の多様な実情を学ぶ機会を設けています。



井口 梓 研究室

研究室では、愛媛県内の様々な観光地域、例えば道後温泉、内子町、石鎚山、しまなみ海道などで産官学協働による観光まちづくりに取り組んでいます。実践では、観光プロモーション、観光コンテンツ（HP、SNS、マップなど）制作、モデルコースの造成、ビジターセンターの整備など、幅広い活動に取り組めます。時には、全国の都市・農村観光の先進地や世界遺産等を巡り、様々な知識や経験を学びます。



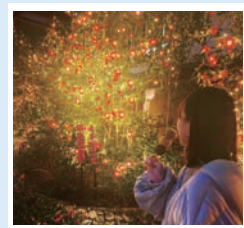
佐藤 大規 研究室

様々な文化財の現地調査を行っています。これまでに、伊佐爾波神社・松山城の外観調査、福山城伏見櫓の実測調査を行いました。古建築の実測調査・年代判定・痕跡調査・写真撮影などを中心に多様な文化財の調査手法を学びます。その上で、適切な保存・普及方法を地域の方々と検討します。今後は市町村が文化財指定をする際の調査や愛媛県内市町村における文化財の再調査や社寺建築の彫刻調査、絵馬調査、石碑調査などを予定しています。



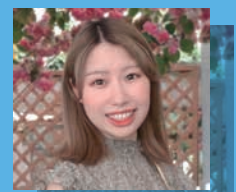
淡野 寧彦 研究室

学際的な視点を重視した活動を進めています。具体例としては、松山市興居島における農業版ハザードマップの作成や地域活性化、愛媛県の郷土料理「いずみや（丸ずし）」などを題材とした食文化の継承やまちづくり、Instagramを活用した愛媛県中予地方の魅力発見、ビッグデータを活用した愛媛県民の健康づくりプロジェクトなどが挙げられます。



在学生からのメッセージ 久保 天希

私が所属する地域文化研究会は、愛媛県の地域文化を学び、探究することを趣旨として活動している学生団体です。活動は、日本酒の販促活動をはじめ、内子や大洲の地域づくり、砥部焼窯元訪問、柑橘収穫など、地域文化を五感で体験し、「人づくり」ができる「人」づくりを目標としています。私は成人して、お酒が世代や性別を問わず楽しめる魅力的なツールであることに気づきました。若者の日本酒離れは著しく、研究会では日本酒を普段選はない若者が県産日本酒に触れることができるイベントや愛媛大学酒の醸造体験などを実施しています。



文化を地域の未来のために

文化遺産、歴史遺産、観光、まちづくり、都市景観など
様々な専門分野の教員がみなさんと一緒に研究します。

教員紹介

寺谷 亮司

TERAYA Ryoji

都市景観論



私の専門は、①日本および世界の都市の経済・産業、建物・土地利用、都市問題・将来ビジョン、②文化資源（特に酒を中心とする飲食文化）を活用した地域の活性化やまちづくり、③外国（特にモザンビーク、モーリシャス、南アフリカ共和国などの南部アフリカ諸国）との交流や異文化の研究です。上記専門を踏まえ、他地域との比較やグローバルな視点を持ち、皆さんと一緒に各地のフィールドへ出かけ、様々な人びとの話を聞き、種々のイベントや活動に参加することによって、地域の個性や魅力、将来ビジョンを考えたいです。



【好きな言葉】
一会一期（一期一会の逆、一度会ったら一生の付き合い）
【休日の過ごし方】
ドライブ、買物（運転は家内）、ポストクロッシング
【お気に入りの場所】
モーリシャス、行きつけ酒場、寺谷研究室



村上 恭通

MURAKAMI Yasuyuki

文化遺産論



日本列島は地形、気候が複雑多様で、長い年月をかけて各地域の文化が形作られてきました。その過程で、地上に、地下に多くの歴史遺産がのこされました。私は遺跡、遺物といった考古学が対象とする歴史的遺産を研究の対象としながら、個性ある地域文化の解明に取り組んでいます。かつて地方は中央発信型の文化に遅れまいとして、足下の文化を軽視する傾向がありましたが、昨今はそれが変わりつつあるようです。地域文化の個性を見いだそうと努力する人も多くなってきました。文化遺産論では歴史的な遺産について、本で学ぶだけでなく、フィールド調査で実際に触れます。そして新しい価値を見だし、その価値を地域と共有しましょう。



【好きな言葉】
Don't think, feel!
【休日の過ごし方】
洋画鑑賞、ベースギター
【お気に入りの場所】
喜界島の海とガジュマルの森、そしてアルタイ高原



榎林 啓介

MAKIBYASHI Keisuke

文化遺産論



私たちが住む地域の歴史・文化は想像以上に豊かです。しかし、それらを私たちはまだまだ知りません。いっぽうで、歴史遺産や文化財を、これからの地域社会に活かすことが今、切に求められています。そのようななか、私たちは、地域の歴史をきちんと把握をせずに前に進むわけにはいきません。何が歴史的事実で、どのような歴史的意義があるのか。人々はどのような環境のなかで、どのような歴史・文化を育んできたのか。それらを受けて、未来へ遺し活かすための議論ができるのだと思います。そのためにも、学術的な基礎をしっかりと学び、そして地域にある歴史遺産・文化財をめぐる様々な方々との出会いを大切にしていきたいと思っています。



【好きな言葉】
向日葵
【休日の過ごし方】
描絵
【お気に入りの場所】
中国



井口 梓

IGUCHI Azusa

観光文化論



私は、地域の文化、歴史、伝統、景観、産業、暮らしを活かした観光やまちづくり、まちづくりに関わる人々（担い手）について研究しています。専門としている「観光文化論」とは、観光と地域文化の関わりについて考え、観光が地域社会に果たす役割や影響について研究する分野です。近年では、エコツーリズム、スポーツツーリズム、産業観光や遺産観光（文化・自然）、アニメによる観光振興等の「ニューツーリズム」が展開し、観光と地域社会の関係にも変化が見られるようになりました。観光文化論研究室では、これら「観光文化」への様々なアプローチを通して、絶えず変化し続ける「観光」を学び、今後の「観光まちづくり」のあり方について一緒に考えます。



【好きな言葉】
迷ったら挑戦する道へ
【休日の過ごし方】
旅行、散策、街歩き
【お気に入りの場所】
瀬戸内や四国山地の風景、松山城からの眺め



佐藤 大規

SATO Taiki

文化資源活用論



古建築（神社・寺院・住宅・城郭）や石碑・絵馬などについて実地調査および文献など資料調査を行った上で、他地域と比較するなどして、その特色や地域の歴史上の意義などを考察しています。研究対象としている古建築や石碑・絵馬といったモノはしゃべることができません。絵芸員として博物館であつた化石やはく製も同様でした。しかし、これらモノにも伝えたいことがあるのではないのでしょうか。現地調査などを通して、それを読み取り、さらに他者にわかりやすく伝えるのが研究の最大の目標です。新しいモノと出会うこと、新しい知見を得ること、そしてそれを人に知ってもらうこと。それを一緒に楽しみましょう。



【好きな言葉】
楽しめることに楽しみ、楽しめぬところも楽しむ
【休日の過ごし方】
読書（小説・漫画）、ダム巡り、バードウォッチング
【お気に入りの場所】
図書館、(古)書店、淡路ヶ峠



淡野 寧彦

TANNO Yasuhiko

地域構想論



私たちが生きる社会では、様々な課題が存在し、かつ日々大きな変化が続いています。しかし、こうした様々な事象について、いきなり難しく考えたり専門的な知識を勉強したりしようとしても、なかなかうまくいかないものです。そこで私は、自分の身近な内容から研究や教育の種を見出すことを重視しています。自分自身では食べ物を作ったことがなくても毎日食事ができるためには、どんな仕組みが存在するのか、当たり前だと思っている毎日の行動には、どんな意識や条件が影響しているのかなど、いざ考えてみると意外と答えにくい事柄が、身の回りには多数存在しています。まずは無理なく、毎日の暮らしの中から社会を読み解く目を養ってみませんか。



【好きな言葉】
「楽」。「らく」でもあり、「たのしみ」でもあり。
【休日の過ごし方】
2人の子供と戯れております。
【お気に入りの場所】
自宅。



卒業論文【テーマ例】

- 道後温泉など「インスタ映え」空間における観光行動と SNS メディア展開
- 妖怪伝承など地域文化を活かしたコンテンツと観光まちづくり
- 賑わい創出に向けた公共空間のリニューアルとその活用に関する研究—松山市花園町通りを事例に—
- 酒造会社における生産販売・地域観光振興活動—岡山市・宮下酒造の事例—
- 『ひろしま食べる通信』を通じた産消提携拡大の可能性
- 宮崎県におけるあくまきの認知と食習慣
- 岡山県真鍋島における歴史遺産と地域の取り組み
- 中四国地方における中世城跡の保存・活用の現状と将来 など

就職実績【2021 年度卒まで】

【農業・林業】	岡山県農業共済組合
【建設】	セキスイハイム中四国（株）、（株）ティーメック
【製造】	（株）カイハラ、山陽物産（株）
【電気・ガス】	四国電力（株）
【情報通信・マスコミ】	（株）エス・ピー・シー、（株）エフエム愛媛、（株）愛媛CATV （株）K2コミュニケーションズ、セキ（株）、バルテス（株） （株）マイタウン今治新聞社、（株）LASSIC
【運輸・郵便】	（株）ニチレイ・ロジスティクス中四国、日本郵便
【卸売・小売】	大田鋼管（株）、（株）フジ、（株）ランドウエル、MX モバイリング（株）
【金融・保険】	伊予銀行、愛媛県国民健康保険団体連合会
【不動産】	興陽商事（有）、三福グループ
【旅行・宿泊】	（株）大谷山荘、フェニックスリゾート（株）
【サービス】	キスケ、（株）セキュア、（株）ベルモニー
【コンサルタント】	（株）ジャパンインターナショナル総合研究所、日本 ATM（株）、（株）パスコ
【医療・福祉】	香川医療生活協同組合
【公務員】	愛媛県、岡山県、松山市、今治市、新居浜市、四国中央市、鳥取市、吉野川市
【進学】	大学院（愛媛大学）

地域に寄り添う 観光まちづくり

株式会社パスコ
中四国事業部技術センター 空間情報部社会情報課
山下 洵子（2021 年度卒）

私は、都市計画コンサルタントとして、まちづくりに関する業務に携わっています。人々の暮らし方や考え方の多様性を受け止め、地域の将来像を探ることは簡単ではありませんが、大学で学んだ「地域に寄り添い、一緒に答えを見つけていく」ことを何より大切にしています。世界遺産「宮島」へと繋がる宮島口の観光まちづくり整備に携わらせていただくなど、大学で文化と観光の在り方を模索し続けて得た知識や経験、学ぶ姿勢などの全てが自分の力になっていると実感しています。



すべて「文化」

愛媛県公営企業管理局県立病院課
濃邊 玲士（2020 年度卒）

私は、祖母の生まれ育った集落に伝わる 1 つの民話を残していきたいと考え、このコースに入りました。このコースでは「文化」という概念に対し、遺産、観光、行政といった様々な角度から学びを深めるとともに、「文化」の持つ懐の深さを知ることができました。卒業した今でも、入学時に耳にした「身の回りにあるもの全てが文化」という言葉が頭に残っています。県内の様々な文化の発展に寄与するため県職員という職に就きましたが、学んだことは多くの場面で役立っています。



《文化を地域の未来のために》

今、都市や農村で生じる過疎化や人口減少、コミュニティ活動の担い手不足等の課題に対して、地域のさまざまな文化資源を掘り起こし、文化を活かした地域づくりに注目が集まっています。これからの地域社会では、地域文化の保存・継承・活用と連動した地域振興や観光振興の取り組みが求められています。

愛媛大学社会共創学部・文化資源マネジメントコースでは、文化を地域の未来をつくる「資源」として位置づけ、歴史的な文化遺産の発掘や保存に関わる「文化遺産」都市や農村の文化を観光に活かす「観光文化」、地域文化をまちづくりに活用する「まちづくり」の3つの視点から学ぶことで、地域振興や課題解決、まちづくり、教育福祉、観光、産業などの地域振興と連携し、「確実な文化継承」を進める新しい人材を育成します。

